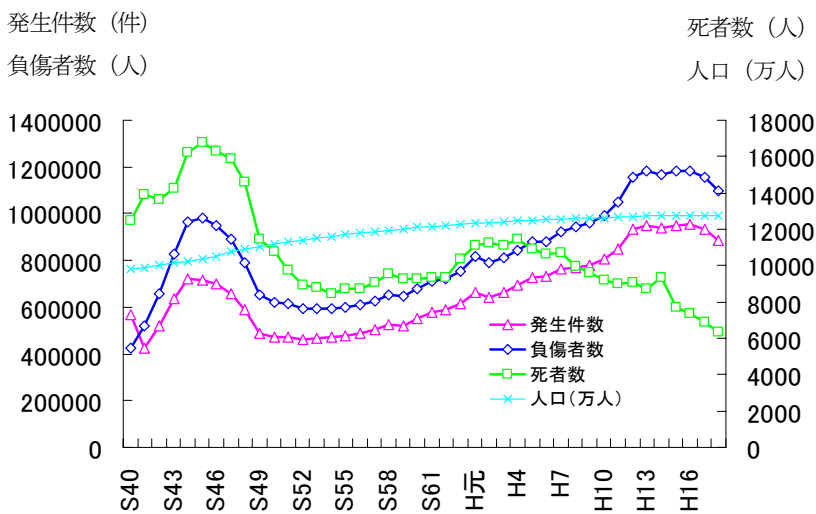


■交通事故と交通安全

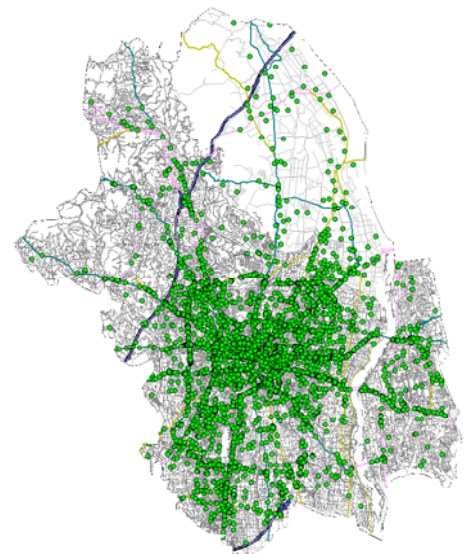
平成 18 年現在、日本では年間に 886,884 件の交通事故が発生しています。

また、今までの交通事故の動向をみてみると、戦後から 1970 年頃まではモータリゼーションの急速な進行により道路整備や信号機設置等の交通安全のための整備が追いつかず、交通事故による死傷者数が急激に増大しました。その後 1975 年頃までは、信号機・反射帯・ガードレール・中央分離帯の設置や自動車の改善などハード面を中心とした交通安全対策の強化により、事故件数・死傷者数ともに減少してきましたが、1978 年以降、再び交通事故は増加しています。そのため近年では、道路交通法改正に伴って取締りの強化や罰則規定の改定などソフト面での対策がなされ、事故件数・死傷者数ともに減少傾向にあります。

しかし今後の社会背景として、自動車保有台数の増加や、都市交通の多様化、高齢化社会の進展が考えられるため、交通事故の発生件数や負傷者数は増加する可能性を含んでいます。



全国の交通事故推移



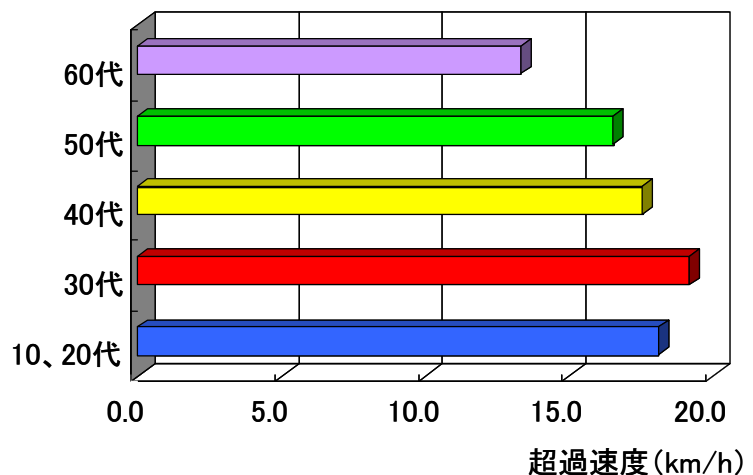
平成 18 年宇都宮市内交通事故地点マップ

交通事故減少のためにも、今後はハード面の交通安全対策に加えて、様々なソフト面での交通安全対策が重要となると考えられています。交通安全はハード面とソフト面の双方がバランスよく成り立つことで効果が発揮されるものと考えられているためです。私たちの研究室では、交通事故の発生原因分析、交通取締りの効果の検証、運転者意識と交通行動の関係性の把握など、ハード面・ソフト面様々な視点から交通事故の分析を行っています。

以下に私たちの研究室で行った研究の一部を紹介します。

ドライバーの危険意識についてアンケート調査を行いました。法定速度 60km/h の道路で超過速度何 km/h になるとスピード違反で捕まるかという質問をしたところ、年齢別でスピード違反意識に差が見られました詳しくみてみると、30 代が最も速く、スピード違反意識が低いことがわかりました。また 60 代が最も遅い値となり、スピード違反意識が高いこともわかりました。

このような違反に対する意識などドライバーの運転意識というものは、交通行動に影響を与え、交通事故に繋がる可能性があると考えられます。そのため、今後もハード面での対策と同時にこういったソフト面での対策も必要となると考えられています。



年齢別スピード違反意識